北海道の冬のアート・プロジェクト年表

西暦（元号）	1950（昭和25）	1951（昭和26）	1952（昭和）	1953（昭和28）	1954（昭和29）	1955（昭和30）	1956（昭和31）	1957（昭和32）	1958（昭和33）	1959（昭和34）
雪や氷による像や建造物を中心とした冬を楽しむ祭り／観光イベント	**さっぽろ雪まつり**（大通公園ほか，札幌） ※インタビュー映像 写真提供：さっぽろ雪まつり実行委員会 地元の中高校生が6つの雪像を大通公園に設置。						第2会場として荒井山会場が加わる。（この年のみ）			
主な出来事	● 北海道開発庁設置	● 円山動物園開業			● 台風15号により洞爺丸など青函連絡船5隻沈没。岩内では大火が発生			● 札幌テレビ塔完成	● 北海道大博覧会 ● 北海道教育大学札幌分校に特設美術課程開設	● 札幌ライラックまつり開始

北海道の冬のアート･プロジェクト年表について

- ・冬季に北海道内の屋外を主な会場として開催されている数多くの催しのうち、アーティストがなんらかのかたちでかかわったものを傾向別に分類し、時系列でまとめました。
- ・本アーカイブ展会場内に、詳細紹介パネル、インタビュー映像、閲覧用カタログなどがある場合は、青字で記しました。
- ・公式ホームページ上にアーカイブがあるものについては、QRコードを付しました。
- ・現在、把握できているものを掲載しましたが、これら以外の重要なプロジェクトの情報をお持ちの方は、お知らせいただけましたら幸いです。

編集：札幌文化芸術交流センター SCARTS　調査協力･データ提供：アートとリサーチセンター／さっぽろ天神山アートスタジオ

1960（昭和35）	1961（昭和36）	1962（昭和37）	1963（昭和38）	1964（昭和39）	1965（昭和40）	1966（昭和41）	1967（昭和42）	1968（昭和43）	1969（昭和44）	1970（昭和45）	1971（昭和46）
					 真駒内会場 写真提供： さっぽろ雪まつり実行委員会 第2会場として真駒内会場設置（～2005）。 「市民の広場」が始まる。						
旭川冬まつり（常磐公園ほか，旭川） 1946年に除雪の雪山対策として、旭川にゆかりの深い彫刻家 加藤顕清の助言をもとに観光協会会長が雪像を芸術化することを提案したのが発祥と言われている。その後、「北海冬まつり」（1947年）、「旭川雪まつり」（1953～55年）などを経て、1960年に現在に続く「旭川冬まつり」が開始された。1986年には会場を拡張し、常磐公園から石狩川河川敷にメイン会場を移したほか、世界最大級の壮大なスケールで作られる大雪像や「氷彫刻世界大会」、「あさひかわ雪あかり」などさまざまなイベントが繰り広げられるようになる。											
	● 札幌市民交響楽団（現・札幌交響楽団）発足		● 札幌市民憲章制定	● オリンピック東京大会			● 北海道立美術館開館			● 大阪万国博覧会 ● 札幌市の人口100万人突破	● 札幌市営地下鉄南北線（北24条—真駒内）開業 ● 札幌に地下街オープン

1972（昭和47）	1973（昭和48）	1974（昭和49）	1975（昭和50）	1976（昭和51）	1977（昭和52）	1978（昭和53）	1979（昭和54）	1980（昭和55）	1981（昭和56）	1982（昭和57）	1983（昭和58）

国際雪像コンクールが始まる。

写真提供：荒井善則

制作者集団「グループ・ハイバネーション」（荒井善則、一ノ戸ヨシノリ、後藤充弘、下村朔郎、高橋敏八、盛安俊壱）が、水が自然に凍る様を楽しむ、高さ約7mの「空と氷柱」を制作。

層雲峡温泉氷瀑まつり（層雲峡 石狩川河川敷）

写真提供：層雲峡観光協会

恵庭在住の彫刻家 竹中敏洋の指導のもとに発案。石狩川沿いに、川から汲み上げた水を使い、自然を最大限に生かして作られた雄大な氷像が立ち並び、ライトアップによって幻想的な光景をつくり出す。

千歳・支笏湖氷濤まつり（千歳市支笏湖温泉）

写真提供：支笏湖氷濤まつり実行委員会

冬季の誘客のためのイベントとして「氷瀑まつり」を参考に発案。彫刻家竹中敏洋の指導を得ながら湖水を噴射する技術を工夫し氷像を制作。青みを帯びた氷の色はのちに「支笏湖ブルー」と呼ばれるようになる。

雪や氷で
屋内空間を創出

写真提供：さっぽろ雪まつり実行委員会

岡本太郎デザインによる「雪の女神」制作。

しかりべつ湖コタン（然別湖，鹿追）

全面結氷した湖上を会場に、雪や氷のブロックを積み上げてイグルーなどを建設し、村に見立てて楽しむイベント。地元の若者らが自分たちの遊ぶ場所として始め、1982年からは一般に向け開村。氷上露天風呂のほか、「アイスカフェ／アイスバー」や「アイスロッジ」、「アイスチャペル」などもつくられるようになっていく。

雪や氷以外の造形作品や
発光体を冬の屋外に
設置するプロジェクト

さっぽろホワイトイルミネーション（大通公園ほか，札幌）

写真提供：さっぽろホワイトイルミネーション実行委員会

世界的にも知られる「さっぽろ雪まつり」へとつながる初冬の新しい観光イベントとして、ニューヨークのクリスマスツリーから着想を得て、日本初となるイルミネーションを創出。初年度は、大通2丁目の1,048個の電球が取り付けられたシンボルオブジェ（デザイン：伊藤隆道）のみでスタートしたが、年々規模を拡大し、現在に至る。

第3会場としてすすきの会場が加わる。（現在に至る）

1972（昭和47）	1973（昭和48）	1974（昭和49）	1975（昭和50）	1976（昭和51）	1977（昭和52）	1978（昭和53）	1979（昭和54）	1980（昭和55）	1981（昭和56）	1982（昭和57）	1983（昭和58）
● 冬季オリンピック札幌大会 ● 札幌市が政令都市に移行	● 第1次オイルショック	● 北方圏環境会議を札幌で開催		● 札幌市営地下鉄東西線（琴似─白石）開業	● 北海道立近代美術館開館 ● 札幌市教育文化会館開館	● 札幌·豊平川で「カムバックサーモン運動」開始 ● 第2次オイルショック			● 札幌彫刻美術館（現・本郷新記念札幌彫刻美術館）開館	● 第１回北方都市会議を札幌で開催 ● 北海道立旭川美術館開館	● 北海道開拓の村開村

1984（昭和59）	1985（昭和60）	1986（昭和61）	1987（昭和62）	1988（昭和63）	1989（平成元）	1990（平成2）	1991（平成3）	1992（平成4）	1993（平成5）	1994（平成6）	1995（平成7）

写真提供：さっぽろ雪まつり実行委員会

第4会場として中島公園会場が加わる。（~1992）

会場を石狩川河川敷まで拡張し、メイン会場とする

メイン雪像「ガリバー城」が世界一大きな雪像として
ギネスブックに掲載

韓国水原市との姉妹都市5周年を記念したメイン雪像「水原城」が
ギネス記録を更新。（高さ30.29m・幅76.0m・奥行45.0m）

写真提供：然別湖コタン実行委員会

然別コタン・冬のワークキャンプ（然別湖，鹿追町）

東京から十勝に移転してきた象設計集団が行った、凍結した湖上を舞台に繰り広げた雪の建築によるプロジェクト。

光の造形展（大通公園，札幌）

「さっぽろホワイトイルミネーション」の会場内で、当時「ハイテクアート」と呼ばれていた新しいテクノロジーを取り入れた作品を中心に、光を取り入れた作品を屋外展示。10回展まで開催。

あさひかわ雪あかり（常磐公園ほか，旭川） ※インタビュー映像

「旭川冬まつり」の一環として、あかりと造形によって冬の風景を幻想的に演出するイベント。1992年から2008年まで、旭川在住の前衛美術家一ノ戸ヨシノリがプロデューサー（統括ディレクター）を務め、枯れ木や枝の骨組みに白い布を巻き、内部に電球を仕込む行灯を雪原に配置するインスタレーションを、主会場である常磐公園のメイン作品として展開した。1994年からは「地域雪あかり」が開始され、市内各所で家庭や学校、町内会、商店街、職場などによる市民参加の輪が広がっている。

一ノ戸ヨシノリ
[illegible]
撮影：[illegible]

雪や氷を素材とした立体造形としての作品を制作するプロジェクト

雪と氷の造形展（札幌芸術の森） ※詳細パネル

写真提供：札幌芸術の森美術館

札幌市内･近郊の彫刻家などに雪や氷を素材とした作品の制作を依頼し、札幌芸術の森の園内に約1週間展示。抽象や半具象の雪像のほか、雪を黒くしたり、既存の建造物との関係性をもたせたり、池に張った氷を用いるなど、これまでの雪まつりの雪像とは明らかに異なるアプローチで新たな表現を模索する実験的な試みも多くみられた。2回目以降は「雪の造形展」と名称変更。最後となった3回展は、間3年を隔てた1992年に開催。

1984（昭和59）	1985（昭和60）	1986（昭和61）	1987（昭和62）	1988（昭和63）	1989（平成元）	1990（平成2）	1991（平成3）	1992（平成4）	1993（平成5）	1994（平成6）	1995（平成7）
	● プラザ合意	● 札幌芸術の森開園	● 国鉄分割民営化、JR北海道発足	● 天安門事件 ● ベルリンの壁崩壊 ● 青函トンネル開通		● 札幌芸術の森美術館開館 ● PMF開始	● 湾岸戦争	● YOSAKOIソーラン祭り開始	● 釧路沖地震、北海道南西沖地震	● 地下鉄東豊線（豊水すすきの―福住）開業	● 阪神・淡路大震災 ● 地下鉄サリン事件

1996（平成8）	1997（平成9）	1998（平成10）	1999（平成11）	2000（平成12）	2001（平成13）	2002（平成14）	2003（平成15）	2004（平成16）

アイスビレッジ（トマム, 占冠）

マイナス30℃にまで気温が下がる、トマムの冬の夜に現れる氷の街。「氷の教会」「氷のホテル」「氷のBar」「氷の滑り台」などを幻想的な雰囲気の中で楽しむことができる。

おとふけ十勝川白鳥まつり 彩凛詩（十勝川温泉, 音更）

十勝川温泉に飛来する白鳥にちなんで1992年に始められていた「十勝川白鳥まつり」において、十勝が丘公園ハナック広場を会場とした、数多くの三角錐などを広大な雪原に設置して光の森をつくり出すイベントが2000年頃から中心になり、年々規模を拡大。音と光を連動させ、幻想的な空間を演出するショーが繰り広げられている。2010年から、イベントがイメージしやすいように名称を「彩凛詩」から「彩凛華」に変更。

Tokachi art Camp 白鳥と流木と光のアート（十勝川温泉アクアパーク, 音更） ※カタログ

「十勝川白鳥まつり」の一環として、佐野まさのなど十勝の現代アーティストが中心となり、白鳥が飛来する厳寒の十勝川河川敷をフィールドに、流木などを素材としたインスタレーションを約1ヶ月にわたり展開。2000年は「白鳥と流木のアート」、2001年は「十勝川流木アート」のタイトルで実施。全3回。

なよろ国際雪像彫刻大会ジャパンカップ（名寄市南広場）

「なよろ雪質日本一フェスティバル」のメインのイベントとして、10チーム以上の国内外からの芸術家チームや学生チームが、3×3×3mの雪のブロックから3日間で作品をつくり出し、その芸術性や独創性、技巧、印象度などを競い合うコンクール。

十勝の

雪国の生活や営み、自然現象などと深くかかわる新たな表現を探求するプロジェクト

積雪を取り入れたプロジェクト

1996（平成8）	1997（平成9）	1998（平成10）	1999（平成11）	2000（平成12）	2001（平成13）	2002（平成14）	2003（平成15）	2004（平成16）
	● 北海道拓殖銀行経営破綻 ● 札幌コンサートホール開館 ● アイヌ文化振興法施行	● 北海道国際航空（エア・ドゥ）就航	● 札幌アーティスト・イン・レジデンス事業開始		● 札幌ドームオープン ● 文化芸術振興基本法（現・文化芸術基本法）制定	● とかち国際現代アート展「デメーテル」開催（帯広）	● JRタワー開業	● 北海道日本ハムファイターズの本拠地を北海道に移転

2005（平成17） 2006（平成18） 2007（平成19） 2008（平成20） 2009（平成21） 2010（平成22） 2011（平成23） 2012（平成24） 2013（平成25） 2014（平成26）

さとらんど会場が加わる（～2008）

つどーむ会場が加わる（現在に至る）

プロジェクションマッピングが行われるようになる。

アイスギャラリープロジェクト（帯広駅前北側多目的広場）

アイスタウンフェスティバルの一環として、S-AIRとPRAHA Projectの企画により、氷による現代アート作品として、ギャラリー空間を制作。夜間にライトアップするとともに、創作映像上映をはじめさまざまなイベントを行った。

写真提供：S-AIR

アイスヒル

氷と雪でつくられた
からなり、実際に滞
北海道のアーティス

環境アート 雪と風の器（とかちプラザ南公園，帯広）

帯広の街の東西南北の主軸のズレに対して正しい方位をイメージしなおすとともに、この方位が及ぼす帯広・十勝の農や自然、都市の構造などに関する影響について考えるプロジェクト。方位と結びつく四獣と色彩をもとに、佐野まさの、高橋英双、大沼秀行、鈴木隆が作品を展示した。翌年の「雪と風の器」においても鈴木隆が屋外展示した。

北見現代美術展-10（北網圏北見文化センター美術館，北見）

1983年から不定期で開催されている北見現代美術展の第10回展に、北見のほか、札幌、旭川、帯広の作家17人が参加。そのうち、鈴木隆と林弘尭が美術館前庭に作品を展示した。

防風林アートプロジェクト

十勝の原風景ともい
ンテンポラリーアート
47作家が参加し、最

ウィンターサーカス（シーニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート，旭川・美瑛・上富良野・美瑛・占冠・砂川ほか） ※詳細パネル ※インタビュー映像

雪をつかったランドアートをアーティストが発想し、地域の人達がサポートして協働で制作するアートプロジェクト。また、春に雪が溶けてなくなるまでを会期とし、自然がつくる造形の魅力と季節の変化を楽しむのも特徴。「シーニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート」の旭川と占冠を結ぶ沿線や高速道路のサービスエリアなど広域に作品を設置。初回は旭川市西神楽の一会場からスタートし、徐々に会場を増やしながら2009年以降は7会場で実施。全10回開催。

さっぽろ雪像彫刻展（本郷新記念札幌彫刻美術館，札幌）

美術館前庭に、北海道内の彫刻家や専門学校生、高校生などが雪像を制作。陶芸家タニグチスズムが中心となり、「なよろ国際雪像彫刻大会 ジャパンカップ」のPRも兼ねて始められた。

White Land（飛生アートコミュニティー，白老）

飛生アートコミュニティーを拠点に活動する彫刻家奥山三彩が、「飛生の森」において2日間だけの雪と氷のランドアートイベントを開催。2012年は「Clair de Lune」と題した、森の中に月が落ちてきたかのような錯覚を与える作品を制作。2013年は「tree-vase」と題した、木の根元や幹に氷のブロックで花瓶状に覆う作品を制作した。

SNOWSCAPE MOERE（モエレ沼公園，札幌） ※詳細パネル

先進性や独創性に基づいた喜びのある「もうひとつ雪まつり」として、札幌の冬の文化を世界に発信することを目指し、イサム・ノグチがデザインしたランドスケープアートのなかで7回開催したサイトスペシフィックなプロジェクト。美術、音楽、建築、デザイン、映像、ダンス、スポーツなどが交錯するジャンスレスな多様な展開を行った。

カナコ雪造カンバニー 除雪原風景へのオマージュ

（PRAHA2+deep sapporoと近隣住宅の東側玄関前，札幌
ナカノタナ市場前・ぷらっとパーク，岩見沢） ※カタログ ※インタビュー映像

労力や経費を費やさざるを得ない「除雪」に着目し、そのエネルギーをプラス方向に移行する試み。住宅などの除雪した雪を使った造形物によって日常生活を美しくすることや雪という素材の可能性、さらに除雪機がまだ普及する前の、除雪という行為による地域のコミュニケーションの復活などを、PRAHA Projectの主催・企画により、若い美術家ら26人が札幌と岩見沢で試みた。

SAPPORO 2 project（札幌市内各所） ※詳細パネル ※インタビュー映像

第1回「SNOW SCAPE MOERE」の参加作家カミーユ・フェルシュフーレン（オランダ）によって提唱されたオープンコンセプトに賛同する有志によるアートプロジェクト。"いつもの＝現実の札幌" をSAPPORO1と、雪の降っているときの札幌を、現実の札幌とパラレルに存在するもうひとつ別の世界＝ "SAPPORO2" と名付ける。

第1回アーティストによるもうひとつの雪まつり
（リンケージプラザ）

第2回アーティストによるもうひとつの雪まつり
（リンケージプラザ）

アーティスト・イン・スクール［おとどけアート／トヨタ・子どもとアーティストの出会い ほか］（札幌市内小学校、道内小学校） ※詳細パネル ※インタビュー映像

（帯広市立大正小×KOSUGE 1-16）

アーティストが一定期間（数週間から数ヶ月）小学校に通い、空き教室などの学校の余剰空間をアトリエとして活用しながら創作活動を行い、子どもたちや地域と交流するプロジェクト。さまざまな季節に実施されているが、毎年のように冬季にも行われている。

（ニセコ町立ニセコ小×磯崎道佳）

（札幌市立山の手小×野上裕之）

（札幌市立新光小×河田雅文）

（札幌市立陽西小×ルカ ローマ）

（札幌市立北小×東方悠平）

（札幌市立常盤小×富士翔太朗）
（札幌市立旭小×片岡翔）

（札幌市立みどり小×山本耕一郎）
（真狩村立真狩小×長谷川仁）

（札幌市立もみじの森小×小川智彦）

「雪の造形」
（クリスタルパーク，旭川）

「BLOWN CUBE」
（モエレ沼公園，札幌）

東海大学芸術工学部
DESIGN with SNOWプロジェクト

スチールと合板からなる簡素なユニットなどを屋外に設置し、そこに積もる雪の形を楽しむ環境芸術作品。制御できない降雪や日照、風などのさまざまな条件を受けて、雪景がさまざまに変化していく。

「SNOW FALL ／いとなみ」
（札幌芸術の森美術館中庭）
※カタログ

澁谷俊彦「Snow Pallet」（札幌芸術の森美術館中庭） ※カタログ （関口雄揮記念美術館）（ノース・スノーランド イン 千歳） （小樽運河プラザ）（防風林アートプロジェクト，帯広） （札幌宮
（SNOWSCAPE MOERE，モエレ沼公園） ※インタビュー映像

鉄製のオブジェの天板裏面に塗布された蛍光塗料が雪の反射光によって白い雪面を鮮やかな色彩に染め、積雪状態や天候、時刻などによってさまざまな表情をみせる。自然と対峙するのではなく、寄り添うように共生しながら、北国の地域特性を活かした新しいアートの在り方として、大地との強い結びつきを生んでいる。

「SNOW FALL ／いとなみ」
（防風林アートプロジェクト，帯広）

- 知床がユネスコの世界自然遺産登録
- 札幌市が「創造都市さっぽろ」を宣言
- 北海道教育大学岩見沢校に芸術・スポーツ文化学科開設
- 夕張市財政破綻
- 北海道洞爺湖サミット開催
- 東日本大震災
- 札幌駅前通地下歩行空間開通
- 札幌大通地下ギャラリー500m美術館常設化
- 東京スカイツリー開業
- 札幌市がユネスコ創造都市ネットワークに「メディアアーツ都市」として加盟認定
- 札幌市北3条広場（アカプラ）オープン
- 天神山アートスタジオオープン
- 札幌国際芸術祭2014開催

2015（平成27）	2016（平成28）	2017（平成29）	2018（平成30）	2019（平成31）

人形劇オペラ「雪の国のアリス」上演

写真提供：札幌国際芸術祭実行委員会

札幌国際芸術祭2017の事業として、「トット商店街」実施

さっぽろ雪まつり

旭川冬まつり

層雲峡温泉氷瀑まつり

千歳・支笏湖氷濤まつり

しかりべつ湖コタン

アイスビレッジ

ズホテル in 当別（スウェーデンヒルズゴルフ倶楽部）

ホテルやバーなどの4棟の建造物
在体験も可能。客室のデザインは
トが手がけた。

北海道アイススターホテル 駒岡（札幌南ゴルフクラブ駒丘コース）

ICE STAR RESORT KIRORO（キロロリゾート，赤井川）

Niseko Ice Village（ニセコ）

Niseko Ice Village

さっぽろホワイトイルミネーション

おとふけ十勝川白鳥まつり彩凛華

あさひかわ雪あかり

（空港線沿い防風林及び雪原，帯広） ※詳細パネル ※カタログ

える耕地防風林と周辺の雪原を舞台とした野外アート展。帯広コ
の一環として、北海道在住の美術家を中心に道外作家を加えた
も寒さの厳しい季節に作品を展示した。

※カタログ

田村純也「無限の空」（札幌芸術の森美術館中庭）

国松希根太、小助川裕康

「海の宝舟」

（ポロト湖，白老）

アイヌ民族博物館（白老）の企画展のシンボルオブジェとして、全面結氷したポロト湖上に流木を用いて制作。

中庭展示Vol.10

前田育子「冬の始まり」

（苫小牧市美術博物館中庭）

中庭に設置された黒陶による作品が長い「冬」の季節を通過することで生じる「変化」も作品の一部として意図している。

写真提供：苫小牧市美術博物館

なよろ国際雪像彫刻大会ジャパンカップ

ウィンターサーカス vol.α スピンオフ開催

（旭川西神楽、上富良野深山峠）

さっぽろ雪像彫刻展

奥山三彩「OVERLAP」（札幌芸術の森美術館中庭）

中庭内の雪と砂利のみで造形物を制作。

※カタログ

さっぽろ冬のバカンス（さっぽろ天神山アートスタジオ）

写真提供：さっぽろ天神山アートスタジオ

国際公募で選ばれた国内外の3名のアーティストが「冬・雪・さっぽろ」をテーマに作品制作やリサーチをもとにしたプロジェクトを行う。また、札幌を拠点に活動するアーティストも、長く雪に親しんだ視点のもと作品を発表。

※記録集

s(k)now[snow + know]（さっぽろ天神山アートスタジオ）

国際公募アーティスト･イン･レジデンス事業として、国際的に活動するアーティストを毎年3名程度招聘し、北海道をフィールドにした滞在型制作と滞在成果発表を行う。「s(k)now・雪を知るプロジェクト」では、招聘アーティストと札幌の人々が「北方圏」地域、馴染み深い「冬」「雪」について考え、学び、想いを馳せるという時間を共に体験する。

s(k)now[snow + know]

SAPPORO 2 project

アーティスト･イン･スクール

（札幌市立山鼻小×持田敦子）

（札幌市立平岸高台小×黒田大祐）

（札幌市立澄川南小×ミッシェル･アンジェリカ･カビルド）

さっぽろユキテラス（札幌市北3条広場［アカプラ］） ※詳細パネル ※カタログ

“雪と光”をモチーフにして札幌の冬の魅力を発信するプロジェクト。雪という資源をアーティストの創造力で魅力的に演出し、その冬のその場にしか生まれないサイトスペシフィックな体験を提案。

さっぽろユキテラス

さっぽろ垂水まつり（札幌市資料館） ※詳細パネル

写真提供：札幌国際芸術祭実行委員会

SIAFラボのプロジェクトのひとつである「Bent Icicle Project-Tulala（愛称：ツララボ）」の成果発表の場として、「つらら」にスポットを当て、アート、サイエンス、人の営みや、その記憶といった多様な視点から、札幌の冬を再発見する新しい祭り。

さっぽろ垂水まつり

Sapporo WInterChange（札幌市民交流プラザ）

「さっぽろユキテラス」「さっぽろ垂水まつり」と連携し、冬をアートで楽しく変えるプログラムを実施。

の森美術館）

（北海道立帯広美術館）

（六花亭札幌本店）

（ホテル札幌ガーデンパレス）

（六花亭札幌本店）

Snow Pallet

2015（平成27）	2016（平成28）	2017（平成29）	2018（平成30）	2019（平成31）
●札幌市電ループ化	●北海道新幹線が新函館北斗駅まで開業	●札幌国際芸術祭2017開催	●北海道胆振東部地震 ●札幌市民交流プラザ開館	